

さけ・ます資源増大対策調査事業（老部川サクラマス産卵床調査）

静 一徳

目 的

サクラマス野生魚の資源評価のため、河川での産卵状況を把握する。

材料と方法

2017年10月31日に、老部川本流の砂防堰堤から下流の4.4 km 区間にて、調査員2名でサクラマス産卵床を目視調査し、地図上に産卵床の位置を記録した（図1）。また、調査中に見つかったサケ、サクラマスの生体、死体の個体数を記録した。

結果と考察

調査日の水温は8.7℃であった。確認された産卵床は合計11床であった（図1）。産卵床密度（産卵床数/100m）は0.25床/100mであった。調査中にサクラマス親魚は確認されず、サケ親魚の生体が7尾、死体が7尾、計14尾が確認された。よって確認した産卵床のほとんどはサケの産卵床と推察された。

2017年は台風による増水の影響で、産卵が盛んに行われると考えられる10月中旬までの間、調査が実施できず調査時期が遅かったことが、サクラマス親魚が確認されなかった要因と考えられる。また2017年の老部川内水面漁業協同組合によるサクラマス採捕数は78尾と1988年以降で最少を記録したため、遡上数が少なく、産卵床自体も少なかったと推察される。

謝 辞

調査にご協力いただいた老部川内水面漁業協同組合に感謝します。

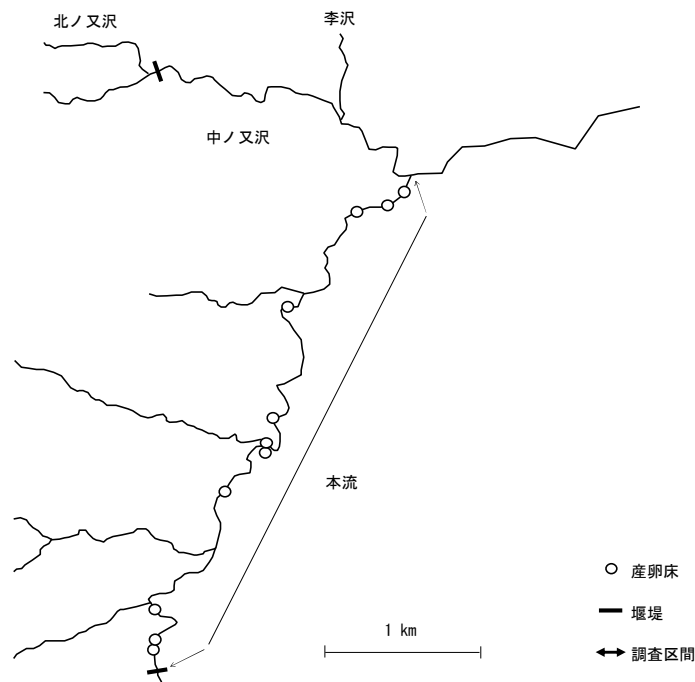


図1. 老部川における産卵床調査区間とサクラマスまたはサケの産卵床分布状況（2017年）